

第一回浪高俳句教室御案内

爛漫の春を迎えて皆様御清祥のこととお慶び申し上げます
さて今日の同志会報に於てお知らせ致しました俳句教室と早速開きた
いと存じます

左記の通り第一回を催しますので御出席下さいますようお願い申し上げます
記

一日時

昭和五十四年四月廿七日(金)午後五時開場、八時迄

一場所

好文クラブ(国鉄大塚駅前第一生命ビル十二階小会議室)

一出句

雑詠七句 同日午後六時發メ切

(どんな俳句でもよろしいです)

一会費

一人約七百円(御食事は各自御すませの上御入室下さい)

一その他

御家族同伴を歓迎します

昭和五十四年四月

发起人

坂本平一郎(一文乙)

福永和夫(一理乙)

山田市郎(五文甲)

林隆夫(十七理乙)

尚準備の都合上出欠御返事は同封がきにて来る四月二十日迄にお願ひします

第一回浪高俳句教室

昭和五四年四月廿七日(金)

午後五時〜八時

於好文クラブ

いよく浪高俳句教室と開会すること、
なり前記のごとく第一回と催した
当日初学講座と担当する山田不染
(市部)氏の母室の御永眠のため出席出来
ず代つて林直人(隆夫)氏の初学講座を
開いた。

当日は出席者十七名に及び第一回と初気
奮々のうちに終了し散会した

選句

阪本浩邦選

天を指す手の彫刻の花の中 龍峰
フランスは我には遠しリラの花 淳一
海原を渡りて来しや初かつと 久子
花の坂旗なにかやて鼓笛隊 龍峰
兵たりし頃を語りて日の永し 直入
陽と透かし芽楓産に底子影 彩陵
新へりの鯉えんりよけな春の池 潤子
離まつり母と呼はれることもなく 富美子
花の寺落の花の磴をよりけり 淳一
山葵田をつなきて激つ喉瀬かな 直入
紙職をみて孫にエメール 履月
手のひらに二枚重なる桜貝 富美子
花吹雪園児の列は遅々として 望青
花の塵くわえて翔ちし雀かな 宗琳
磴高く石南花の花盛りなる 宗琳

山田不染選

投票をして校庭の花を見る 狼月
大窓に一つはいにある春の空 漠水
石南花に行場の鎖垂れて居り 直入
亡き夫の通ひし道に桜散る 久子

離まつり母と呼はれることもなく富美子
招かれて御苑の落花妻と浴ぶ 浩邦
いさかひの後の庭にさ椿落つ 茂

地下出れば銀杏若葉の続く道 狼月

房々と軒をかくせり八重桜 龍峰

手を触れて一輪落しし寒椿 真水

老犬にみやげ買ふわれ春の暮 潤子

計の電話置きて暮春の庭にう 狼月

春愁の人恋しき紅を刷く 富美子

手のひらに二枚重なる桜貝 〃

短冊のくるく廻り夕桜 淳一

花の塵くわへて翔ちし雀かな 果琳

辻堂の寶銭箱に落花かな 〃

花吹雪京へ三里の道しるへ 〃

石南花の小径の消えし行者后直入

花吹雪園児の列は遅々として 望青

絵画展俳句教室でルウウ 淳一

亡き人の愛でし桜や盛りなる 静江

春雨の止むとき誰か気がつかず 彩陵

行く春やボート漕ぐ手を休め 漠水

埋木舎いまでも隈なく花吹雪 浩邦

林直入選

投票をして校庭の花を見る 狼月

〇花の坂旗なにかやて鼓笛隊 龍峰

賣られたる家に咲き満ち庭梅 静江

春雨の止むとき誰か気がつかず 彩陵

候補者の連呼うつに朝寝かな 狼月

春愁や代鳥の遊ぶ一日にも 淳一

出揃ひし並木の新芽足弾む 茂

埋木舎いまでも隈なく花吹雪 浩邦

亡き夫の通ひし路に桜散る 久子

〇離まつり母と呼はれることもなく 富美子

招かれて御苑の落花妻と浴ぶ 浩邦

○いさかひの後の産しき椿落つ 茨月
 計の電話置きて暮春の庭に立つ 旅月
 ○春愁の人恋しさに紅と刷く 富美子
 俳句てふ詩知り初めて暮春の看 久子
 ○昇給と決めて一息さくら草十 茂
 北に見ゆ母校のあたり山かすむ 漢水
 短冊のくるく廻り夕桜 淳一
 花見酒くむや静かに老夫婦 静江
 ○生涯とケチで通して四月馬鹿 浩邦
 花吹雪園児の列は遅々として 望青
 絵画展俳句教室ビルうらう 淳一
 花吹雪京へ三里の道しるべ 宗琳
 池の面々塔うりりを柳絮飛ぶ 〃
 ○旅の塵くはへて翔々し雀かな 〃
 天を指す手の彫刻の花の中 龍峰
 フランスは我には遠しリラの花 淳一
 人の世を語り合ふ夜の桜かな 龍峰
 花の中電車の天井桜色 望青
 各人の自選句 望青

雨霧深きロンドンの街娘を思ふ 弘
 紗経の里を軽くまで藤棚に 直入
 房々と軒をかきせり八重桜 龍峰
 亡き夫の通ひし道に桜散る 久子
 北に見ゆ母校のあたり山かすむ 漢水
 招かれて御苑の落花妻と浴ぶ 浩邦
 計を聞いて駐け込む門の花吹雪 静江
 春愁の人恋しさに紅と刷く 富美子
 如のかどでうえし桜のはつつまみ 潤子
 花吹雪園児の列の遅々として 望青
 山吹は黄に燃え風をはいけり 彩陵
 里をかぶり鳥賊釣人の多忙なる 茂
 短冊のくるく廻り夕桜 淳一
 出席者 淳一
 阪井浩邦 林直入 神山 狼月 三宅 望青 重子 彩陵
 及野 漢水 吉村 山海 須谷 富美子 松子 茂 龍峰
 加藤 潤子 鈴木 弘 西村 静江 中山 長水 藤原 龍峰
 若原 進田 代淳一
 不在 出句 不社 出句
 牛久宗琳 計十八名